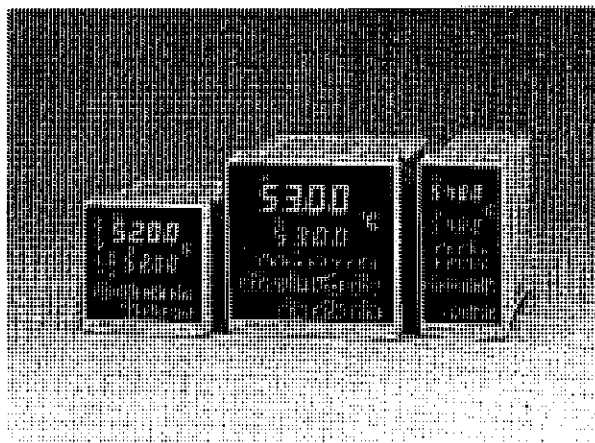


# SR52, 53, 54シリーズ デジタル調節計

## 取扱説明書



このたびはシマデン製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。  
お求めの製品がご希望通りの製品であるかお確かめの上、本取扱説明書を熟読し、  
充分理解された上で正しくご使用ください。

株式会社 **シマデン**

## 「お願い」

この取扱説明書は、最終的にお使いになる方のお手元に確実に届くよう、お取りはからいください。

## まえがき

この取扱説明書は、SR52・53・54シリーズの配線及び設置・操作・日常のメンテナンスに携わる方々を対象に書かれています。

この取扱説明書にはSR52・53・54シリーズを取扱う上での、注意事項・取付方法・配線・機能説明・操作方法について述べてありますので、SR52・53・54シリーズを取扱う際は常にお手元に置いてご使用ください。

また、本取扱説明書の記載内容を遵守してご使用ください。

なお、安全に関する注意事項や機器・設備の損傷に関する注意事項、又追加説明やただし書きについて以下の見出しのもとに書いてあります。

◎お守りいただかないと怪我や死亡事故につながる恐れのある注意事項

### 「⚠ 警告」

◎お守りいただかないと機器・設備の損傷につながる恐れのある注意事項

### 「⚠ 注意」

◎追加説明やただし書き等

### 「注」

## 「⚠ 警告」

SR52・53・54シリーズは一般産業用設備の温度・湿度・その他物理量を制御する目的で設計されています。したがって、人命に重大な影響を及ぼすような制御対象に使用することは避けるか、安全措置をした上で、ご使用ください。もし、安全措置なしに使用されて事故が発生しても、責任は負いかねます。



## 「⚠ 警告」

- 本器は制御盤等に収め充電部が人体に触れない様にしてご使用ください。
- 電源が供給されたままで内器を引き出し、ケース内部に手や導電体を入れないでください。  
感電による人命や重大な傷害にかかわる事故が発生する恐れがあります。

## 「⚠ 注意」

本器の故障により周辺機器や設備あるいは製品等に損傷・損害の発生する恐れのある場合には、ヒューズの取付け・過熱防止装置等の安全措置をした上でご使用ください。  
もし、安全措置なしに使用されて事故が発生しても、責任は負いかねます。

## 「⚠ 注意」

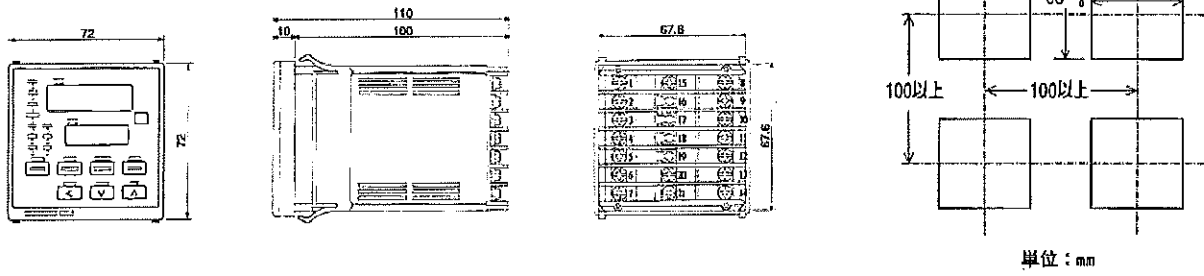
- 本器貼付プレートのアラートシンボルマーク  について  
本器のケースに貼られているネームプレートには、アラートシンボルマーク  が印刷されていますが、通電中に充電部に触れると感電の恐れがあるので、触れないよう注意を促す目的のものです。
- 本器の電源端子に接続する外部電源回路には、電源の切断手段として、スイッチ又は遮断機を設置してください。スイッチ又は遮断機は本器に近く、オペレータの操作が容易な位置に固定配置し、本器の電源切断装置であることを示す表示をしてください。
- 配線時は端子接続部の締付けを確実に行ってください。
- 電源電圧、周波数は定格内でご使用ください。
- 入力端子には、入力規格以外の電圧・電流を加えないでください。  
製品寿命を短くしたり、本器の故障を招く恐れがあります。
- 出力端子に接続する負荷の電圧・電流は、定格以内でご使用ください。  
これを超えると温度上昇で製品寿命を短くしたり、本器の故障を招く恐れがあります。
- リレー接点電流は定格内で使用してください。定格を超えて使用しますとリレー及び本器パネ接点部の焼損事故が発生する恐れがあります。
- ユーザーによる改造及び変則使用は絶対にしないでください。
- 本器を安全に正しく使用し、信頼性を維持させるために、取付・配線・設置場所の環境、操作方法・保守点検について取扱説明書に記載されている注意事項を守ってご使用ください。

# 目次

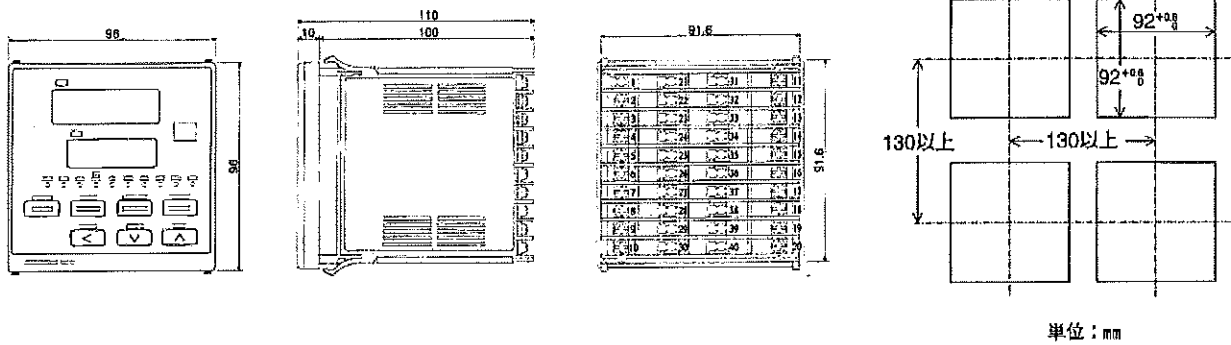
項 目	ページ
1. 外形寸法図とパネルカット	1
2. 取 付	1
2-1. 取付場所	1
2-2. 取付方法	1
3. 端子説明	2
4. 配 線	3
4-1. 入力信号回路	3
4-2. 接 地	3
4-3. 電源その他の配線	3
4-4. 端子の接続	3
4-5. 配線時のお願い	3
5. 各部の名称と機能	4
5-1. 前面部	4
5-2. 操作キーの機能説明	4
6. キー操作とパラメータ	5
6-1. パラメータ系統図の概要	5
6-2. キー操作とパラメータの選択	5
6-2-1. 画面ロック（消去）の解除とロック方法	5
6-2-2. パラメータの選択と設定	5
7. 運転パラメータの設定	6
7-1. 基本画面群 [モード0] 設定値バイアス、イベント動作点、PID値、マニュアルリセット PID調節係数の設定	6
7-2. タイマ画面群 [モード2] エンドタイマ・スタートタイマ時間設定、タイマモードの選択	6
7-3. キーロック画面群 [モード3] 下限/上限設定値リミッタの設定、目標設定値ロック、実行、AT、手動 リモート/ローカル、キーのロック、外部制御（DI）入力の選択	7
7-4. 入力画面群 [モード4] 測定値バイアス、測定値フィルタ定数、の設定 測定入力・測定範囲の選択と変更（熱電対、測温抵抗体入力時） 小数点位置設定、測定範囲スケールリング（電圧、電流入力時）	7
7-5. 出力画面群 [モード5] 出力リミッタ種類の選択、下限/上限出力リミッタ設定 動作すきま（P=OFF時）設定、比例周期（接点、SSR駆動電圧出力時）設定 制御出力動作特性（RA/DA）選択、オートチューニングポイント設定	8
7-6. イベント画面群 [モード6] イベント種類選択、イベント動作すきま設定、待機動作選択 （オプション）ヒータ断線・ループ警報電流値設定、ヒータ断線警報モード選択	9
7-7. オプション画面群 [モード7] リモート設定範囲スケールリング、リモート設定バイアス・フィルタ設定 （オプション）アナログ出力モード選択、アナログ出力スケールリング 開平演算機能の選択 [入力画面 [モード4]（オプション）]	10
8. 運 転	11
8-1. 目標値の設定方法	11
8-1-1. 目標値（SV）の設定/ローカルモード	11
8-1-2. 目標値（RSV）の設定/リモートモード（オプション）	11
8-2. イベント動作点の設定方法	12
8-3. オートチューニングの実行方法	12
8-4. 手動（マニュアル）調節方法	13
8-5. 調節の実行・停止（スタンバイ）の方法	13
9. エラーメッセージ	14
10. キーシーケンス	15,16
11. 仕 様	17
12. コード選択表	19

# 1. 外形寸法図とパネルカット

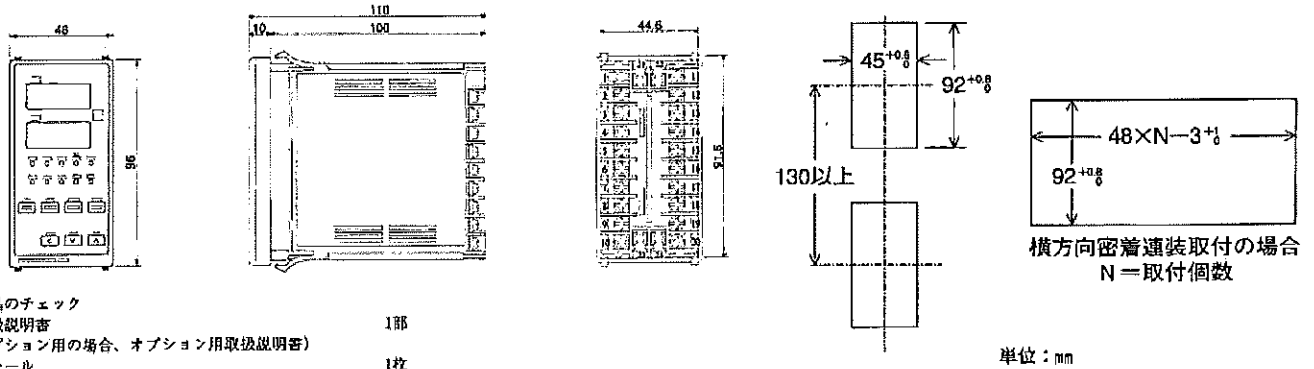
## SR52



## SR53



## SR54



- 付属品のチェック
- |   |             |
|---|-------------|
| 本取扱説明書                                  | 1部          |
| (オプション用の場合、オプション用取扱説明書)                 |             |
| 単位シール                                   | 1枚          |
| ヒータ断線警報用電流検出器 (CT) : ヒータ断線警報オプション付加時に付属 |             |
| 30Aの場合 形式CTL-6-S                        | 1個 (9ページ参照) |

## 2. 取付

### 2-1. 取付場所

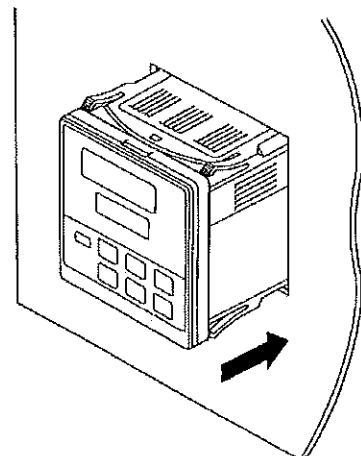
- 取付場所は、環境の良い場所を選んで取り付けてください。

### ⚠ 注意

- 以下のような場所でのご使用は避けてください。
- 引火性ガス、腐食性ガス、油煙、絶縁を悪くするチリ等が発生または、充満する場所。
  - 周囲温度が-10℃以下または、50℃を超える場所。
  - 周囲湿度が90%RHを超えるまたは、結露や水滴を受けるような場所。
  - 強い振動や衝撃のある場所。
  - 強電回路の近くや、電磁誘導障害を受けやすい場所。

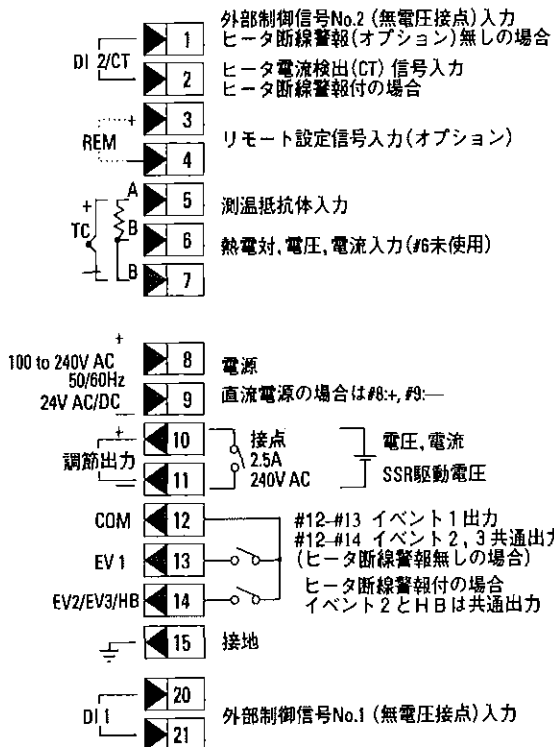
### 2-2. 取付方法

- パネルカット図に従って取付穴加工をし、本体をパネルの前面より確実に押し込んでください。
- 取付パネルの厚さは、1.0~3.5mmの範囲で選定してください。

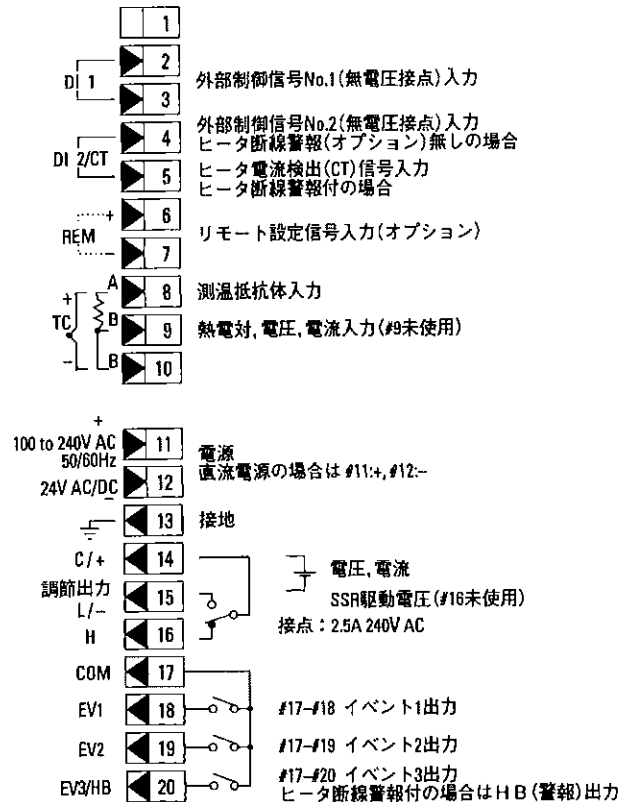


### 3. 端子説明

#### SR52

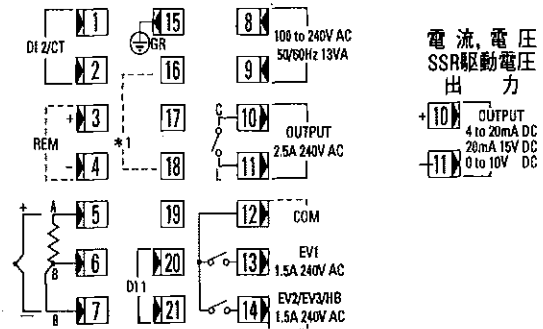


#### SR53, 54



#### SR52

(接点出力)

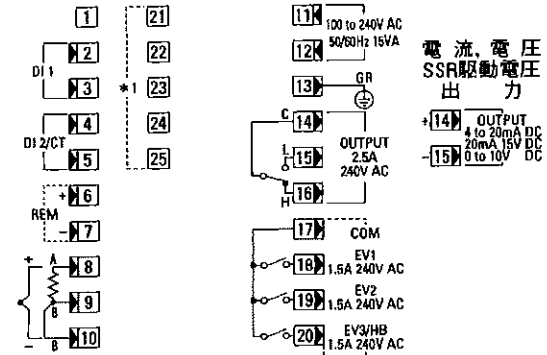


\*1 SR52調節計の端子16~18は、オプション機能により、以下のようになります。注) 端子15は接地してください。

オプション機能	端子番号		
	16	17	18
アナログ出力	+	-	
RS-232C	SG	SD	RD
RS-485	SG	+	-

#### SR53

(接点出力)

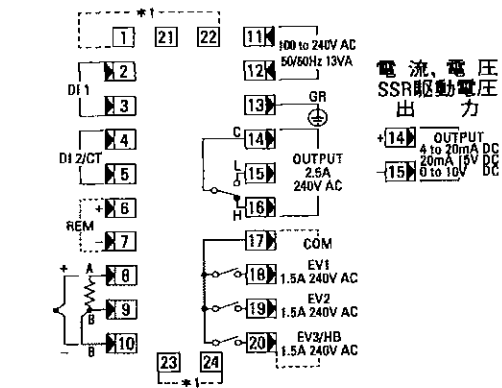


\*1 SR53調節計の端子21~25は、オプション機能により、以下のようになります。

オプション機能	端子番号				
	21	22	23	24	25
アナログ出力	+	-			
RS-232C	SG	SD	RD		
RS-422A	SG	SD+	SD-	RD+	RD-
RS-485	SG	+	-		

#### SR54

(接点出力)



\*1 SR54調節計の端子1、及び21~24は、オプション機能により、以下のようになります。

オプション機能	端子番号				
	1	21	22	23	24
アナログ出力	+	-			
RS-232C	SG	SD	RD		
RS-422A	SG	SD+	SD-	RD+	RD-
RS-485	SG	+	-		

## 4. 配線 「⚠ 注意」

### □配線方法

配線は、[3. 端子説明 (ページ2)] を参照し、以下の事項に従って、行なってください。

### 「⚠ 警告」

- 配線をする場合は通電しないでください。感電することがあります。
- 接地端子は必ず接地して使用してください。
- 配線後の端子やその他充電部には通電したまま手を触れないでください。

### 4-1. 入力信号回路

- 熱電対入力の場合は、所定の補償導線を使用してください。
- 測温抵抗体入力の場合は、三線間の抵抗差がなく、調節計までの抵抗値が5Ω以下となるような電線を用いてください。
- 入力信号線はノイズの混入、誘導を避けるため電源線、動力電源線、負荷線からできるだけ離して配線してください。
- 静電誘導に対しては、シールド線の使用が効果的です。シールドは必要に応じてSR50シリーズ調節計の接地端子に接続してください(2点接地とならぬようご注意ください)。
- 電磁誘導に対しては、入力配線を短い間隔でツイスト(よりあわせ)して配線すると効果があります。

### 4-2. 接地

接地は2mm<sup>2</sup>以上の太い線で、接地抵抗100Ω以下で施工してください。

なお本器の接地は、GR端子で1点接地とし、渡り配線は行なわないでください。

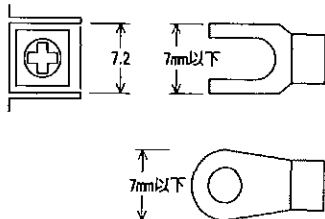
### 4-3. 電源その他の配線

電源その他の配線に対しては、600Vビニル絶縁電線

(JIS C3307)と同等以上の性能を持つ電線、あるいはケーブルを使用し、必要に応じて電源にノイズフィルタを入れてください。

### 4-4. 端子の接続

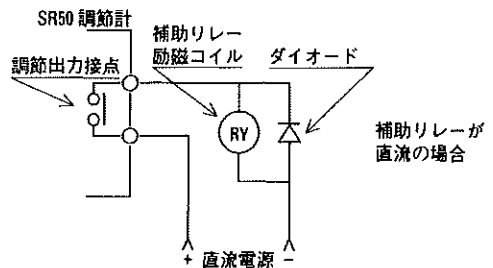
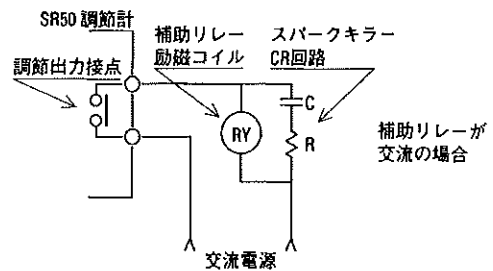
配線は配線図及び本体ケースに貼付の端子説明図に従って行ない、配線後は確認をしてください。



- 圧着端子はM3.5ネジに適合のものをご使用ください。
- 振動、衝撃の大きい所に設置する場合は、端子から外れないよう丸形圧着端子をご使用ください。
- 圧着端子が隣の端子と接触しないように、ご注意ください。

## 4-5. 配線時のお願い 「⚠ 注意」

- (a) 本器にはヒューズ、電源スイッチはありませんので、必要に応じて外部に設置してください。  
なお、ヒューズは定格電圧250V、2Aをご使用ください。
- (b) リレー接点出力で、定格接点容量(240V/2.5A)を超える負荷を開閉するような場合は、補助リレーを併用してください。
- (c) リレー接点により、リレー、電磁開閉器、電磁弁のようなし(誘導性)負荷を駆動する場合、火花消去用のスパークキラー、CR(AC使用時)または、ダイオード(DC使用時)を下図のように励磁コイルに並列に接続してください。(CR回路およびダイオードは、リレーコイル端子/ソケットに直接取り付けてください)

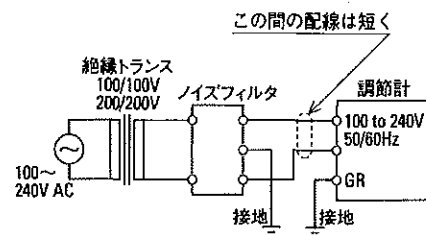


スパークキラー (CRフィルタ) の代表的な例

用途	小型リレー	電磁開閉器
製作メーカー	小型リレー	電磁開閉器
(株)指月電機 S S	SK25B473MA	SK25B104MA
日通工(株)	CR2E333C121	CR2E104C121
松下電器産業(株)	ECQJ 0187X	ECQJ 0186X

### (d) ノイズフィルタ

電源からのノイズが多い場合には、計器の誤動作を防ぐために、絶縁トランスを付加し、ノイズフィルタのご使用をおすすめします。

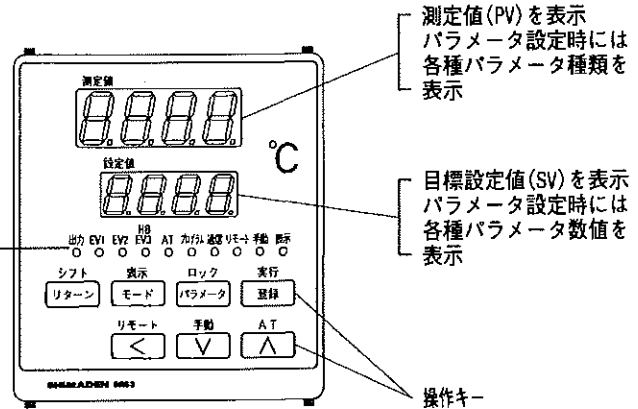


## 5. 各部の名称と機能

### 5-1. 前面部

表示灯名称	機 能	
出力	制御出力の状態表示 接点, SSR駆動電圧出力: 出力ON時点灯 電圧, 電流出力: 制御出力量に比例して輝度に変化	
イベント	EV1	イベント1発生時に点灯
	EV2	イベント2発生時に点灯
	EV3	ヒータ断線警報機能無しの場合は, イベント3発生時に点灯。
HB	ヒータ断線警報機能付きの場合, 断線検出時に点灯。	
AT	制御時, オートチューニング実行中に点灯。	
プログラム	プログラム機能オプション付きで, プログラムモード選択時に点灯。	
通信	通信モード選択時に点灯。	
リモート	リモート設定モード選択時に点灯。	
手動	手動制御動作選択時に点滅点灯。	
表示	全ての画面を表示するモード選択時に点灯。	

各種動作表示灯



SR53 (代表例)

測定値(PV)を表示  
パラメータ設定時には  
各種パラメータ種類を  
表示

目標設定値(SV)を表示  
パラメータ設定時には  
各種パラメータ数値を  
表示

操作キー

### 5-2. 操作キーの機能説明

シフト	表示	ロック	実行
リターン	モード	パラメータ	登録
	リモート	手動	AT
	<	∇	∧

本器には7ヶの操作キーがあり, それぞれにその機能が表記または, 図示されています。

(シフト キーと他のキーを一緒に押すことにより, キーの上部に記載されている機能を行ないます。

(シフト キーを先に押しながら, 他のキーを押してください。)

キー	キー	キー枠内に記載されている機能動作	シフト + キー	キー枠の上部に記載されている機能動作
シフト リターン	リターン	どこのパラメータ画面にあっても, 2回連続して押すことにより基本画面(測定/設定値)へ戻ります。 (2秒以内に2回続けて押さないと無効となります)	シフト リターン	シフト シフトキーを押しながら他のキーを押すことにより, キー上部に記載の機能が行なわれます。 (シフトキーを先に押しながら, 他の目的機能キーを押してください。)
表示 モード	モード	各モード画面群の切替を行ない, キーを押すごとに $\bar{n}d_1 \rightarrow \bar{n}d_2 \rightarrow \dots \rightarrow \bar{n}d_7$ と各モードの先頭画面が切替わります。各モードの先頭画面以外の表示がされている場合は, その画面群の先頭画面に戻ります。	表示 モード	表示 表示ランプが点灯し, 全てのパラメータを呼び出すことができるモードとなります。 ロック(消去)状態のパラメータは点滅表示で現れ, その画面のデータを変更する場合は, ロックを解除しなければなりません。
ロック パラメータ	パラメータ	各モード画面群内のパラメータを切替表示します。キーを押す毎に, パラメータシーケンスの上から下に順次画面が切替わり, 最後の画面からは, 先頭の画面に戻ります。	ロック パラメータ	ロック 設定したパラメータデータの変更を禁止する場合, そのパラメータを呼出しロックキーを押すと, 点滅表示に変わり, ロック(消去)状態となり, 画面表示がされなくなります。 再度ロックキーを押すと, パラメータのロックは解除されます。
実行 登録	登録	データ変更をした場合に確定登録をするキーで, 変更中のデータは点滅表示されていますが, 登録されると通常点灯表示に変わります。	実行 登録	実行 制御動作を実行または, 停止(スタンバイ)かの切替に用います。制御動作中に押すと制御は停止し, 測定値と設定値が点滅表示に変わり, 制御出力は0%, イベントの出力も停止されます。制御動作停止中に押すと, 測定値表示は点滅から通常点灯に変わり, 制御動作が再開します。
リモート <	<	データの変更桁移動キーで, このキーを押すと表示の最下位桁が点滅し, データの変更受付可能を表します。更に押すと点滅桁は上位に移動します。 (小数点位置設定の場合も同様です)	リモート <	リモート リモート設定モードと, ローカル設定の切替を行ない, リモート設定モード選択時は, リモートランプが点灯し, 確認できます。ローカル/リモートモードへの切替は基本画面(測定/設定値)でのみ行なえます。
手動 ∇	∇	数値データ, 文字データを変更するキーで, 数値の場合は押すことにより, 桁下がりやを伴う減少をし, 文字データの場合は選択可能データを1つ更新します。	手動 ∇	手動 基本画面(測定/設定値)画面でパラメータキーを押すと, 出力(out)画面に移行し, 出力画面で手動キーを押すと手動制御モードとなります。(手動ランプ点滅点灯) 制御出力値は, □, □, □ キーにより, 手動で設定できます。定値制御モードでの停止, プログラム制御モードにおける解除の状態では, 手動制御への切替はできません。
AT ∧	∧	数値データ, 文字データを変更するキーで, 数値の場合は押すことにより, 桁上がりやを伴う増加をし, 文字データの場合は選択可能データを1つ更新します。	AT ∧	AT オートチューニング機能の実行と解除を行なうキーで, 実行中はATランプが点灯し, 動作終了時に消灯します。また実行中のチューニング動作を解除する場合は, 再度押すことにより解除できます。

## 6. キー操作とパラメータ

### 6-1. パラメータ系統図の概要

パラメータ系統図の概要を下に示します。パラメータの表示記号と詳細は、15ページのキーシーケンスを参考にして、キーの操作とパラメータの設定をしてください。

### 6-2. キー操作とパラメータ選択

#### 6-2-1. 画面ロック（消去）の解除とロック方法

工場出荷時は、基本画面以外の各モードの先頭画面はロック（消去）の状態になっており、0-0 基本画面と基本画面群の一部のパラメータのみが表示されます。従って、**表示** キーを押しても、他のモード画面群には切り換わりません。

画面ロックを解除して各画面を表示可能とするには、基本画面の状態では **シフト** キーを押しながら **表示** キーを押して、表示ランプを点灯状態にし、この状態で **表示** キーを押すと、0-0 基本画面→1-0 プログラム画面〔モード1〕→2-0 タイマ画面〔モード2〕・・・7-0 オプション画面〔モード7〕と点滅表示の状態では、各画面群の先頭画面を移行します。

ここでロックを解除したいモードを選択し、**シフト** キーを押しながら **ロック** キーを押すと、点滅表示が点灯表示に変わり、ロックが解除されたことを表します。**ロック** キーで解除することによってそのモードブロックの全てのパラメータが呼び出せます。

再びロック状態にする場合は、モードの先頭画面または、パラメータを呼び出し **シフト** キーを押しながら **ロック** キーを押すと表示は点滅状態となりロックされます。表示モードのロックは **シフト** キーを押しながら **表示** キーを押します。（表示ランプ消灯）

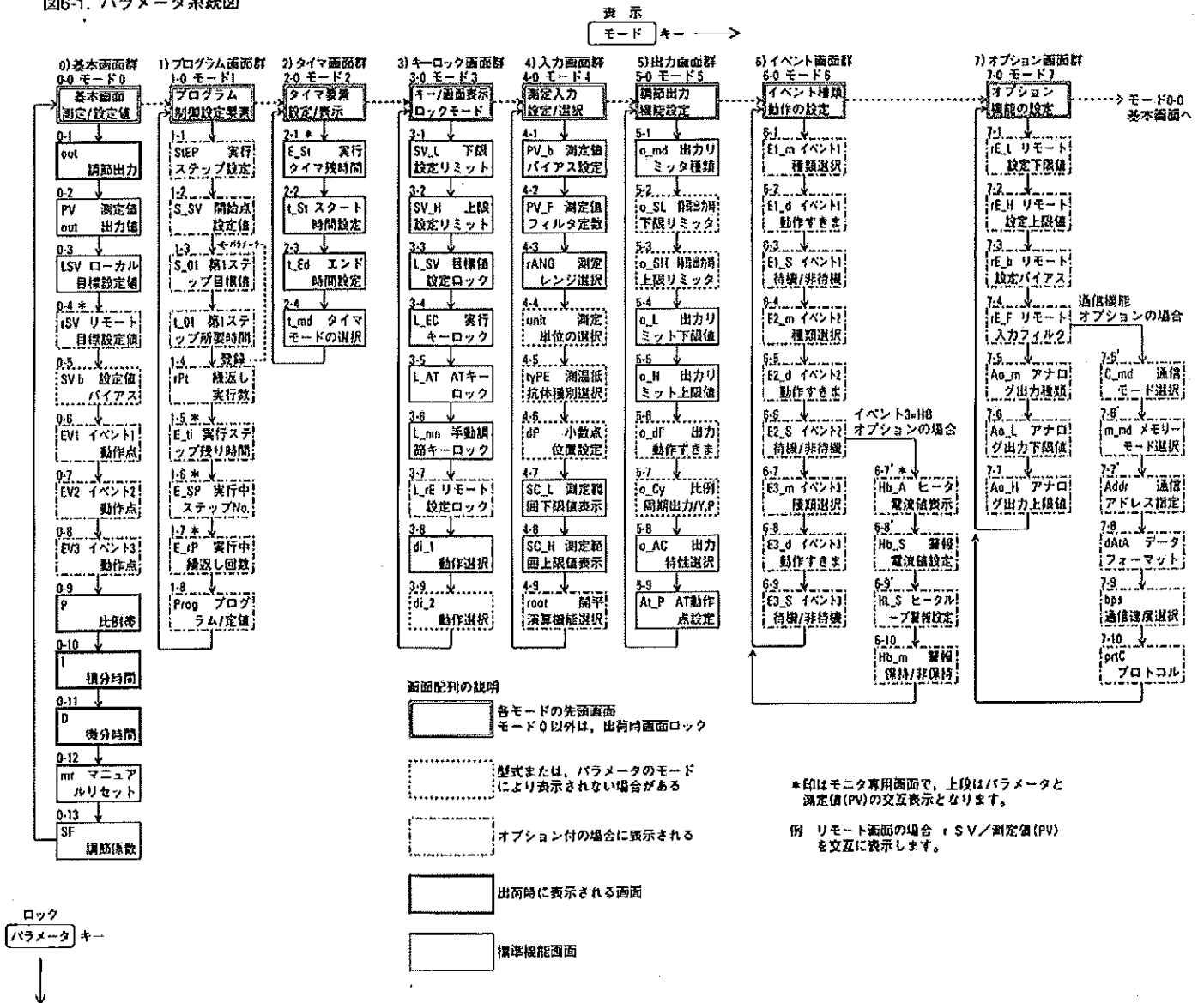
#### 6-2-2. パラメータの選択と設定

各画面内での選択と設定は **リモート**、**手動**、**AT** キーで行ない、**実行** キーで確定します。

（制御の実行中でも選択・設定可能な画面と、制御停止状態でのみ選択・設定可能な画面があります）

**シフト** キーを続けて2回押すと、どの画面からでも基本画面（測定/設定値）に戻ることができます。

図6-1. パラメータ系統図

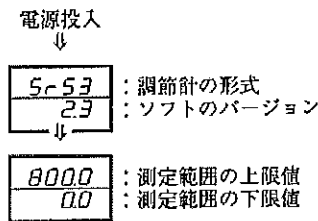




## 7. 運転パラメータの設定

電源投入時の画面と基本画面の表示  
調節計に電源と投入すると、約3秒間下のようなメッセージを表示した後に、基本画面を表示します。

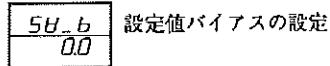
### □電源投入画面



### 7-1. 基本画面群 [モード0]

#### 7-1-1. 設定値バイアス (5H\_b) モード0-5

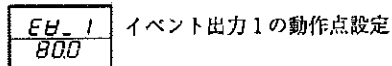
設定範囲: -1999~9999 Unit 初期値: 0 Unit  
目標値 (SV) に対しバイアス調整にて目標値を上または、下にずらして制御する機能で、炉内温度の分布調整、マスタースレーブ調節の際に用います。



外部入力 (DI) 入力 DI1 または DI2 で SB が選択されている場合は、DI1 または DI2 端子を ON (閉) することにより機能します。

#### 7-1-2. イベント動作点 (EH\_1, EH\_2, EH\_3) の設定

モード0-6, 0-7, 0-8 (イベントオプション付加時に表示)  
設定範囲: 測定範囲内  
イベントオプションが付加されている場合は、EV\_1, EV\_2, EV\_3 の動作点を設定します。



イベント動作の種類は“non” (イベント出力せず) を含めて17種あり、これらの内より選択されたイベントを表示。(9ページ参照)

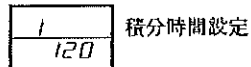
#### 7-1-3. 比例帯 (P) モード0-9

設定範囲: OFF, 0.1~999.9%FS 初期値: 3.0%



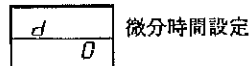
#### 7-1-4. 積分時間 (I) モード0-10

設定範囲: OFF, 1~6000秒 初期値: 120秒



#### 7-1-5. 微分時間 (d) モード0-11

設定範囲: OFF, 0, 1~3600秒 初期値: 0秒



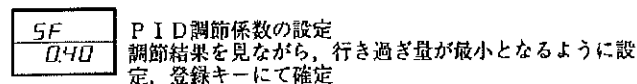
#### 7-1-6. マニュアルリセット (nr) モード0-12

マニュアルリセットの設定  
調節結果を見ながら、オフセットが消滅するように、, , キーで数値を設定、登録キーで確定

#### 7-1-7. PID調節係数 (SF) モード0-13

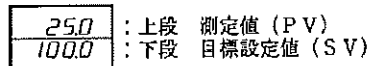
この係数の設定値により、PID調節時のオーバーシュート及びアンダーシュートの発生を最小にします。  
0.00で機能OFF, 1.00で最も強く作用します。

設定範囲: 0.00~1.00 初期値: 0.40



\* P=OFF (オンオフ調節) 及び I=OFF の場合、この画面は表示されません。

### □基本画面モード

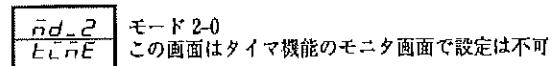


### □設定方法

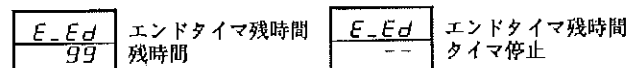
数値の設定は , , キーで行ない、キーで確定します。

### 7-2. タイマ画面群 [モード2]

タイマ機能とは、電源投入時や実行キー、DI (外部制御) 入力により、スタートタイマ (t\_5t), エンドタイマ (t\_ed) を起動させることにより、定値・プログラム調節の実行 (運転) や停止 (解除) をさせたりまた、単にタイムシグナルとして、イベントより出力できます。



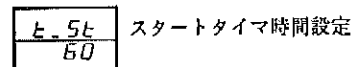
#### 7-2-1. 実行タイマ残時間表示 (E\_5t/スタートタイマ残時間) / (E\_ed/エンドタイマ残時間) モード2-1



現在実行されているタイマの残時間を表示する画面で設定はできません。

#### 7-2-2. スタートタイマ時間設定 (t\_5t) モード2-2

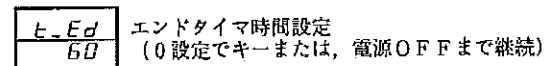
設定範囲: 0~9999分 初期値: 0分



\* スタートタイマの起動条件は、タイマモードにより異なります。  
\* スタートタイマが起動しタイマ残時間が0となると、エンドタイマが起動し、選択されたタイマモードによる動作を開始します。

#### 7-2-3. エンドタイマ時間設定 (t\_ed) モード2-3

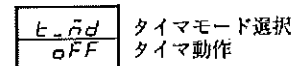
設定時間: 0~9999分 初期値: 0分



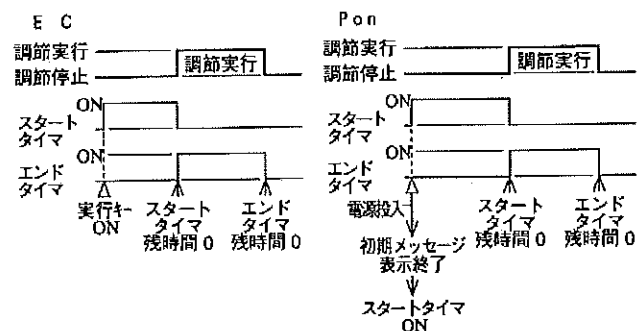
\* エンドタイマは、スタートタイマの残時間が0となると同時に起動し、選択されたタイマモードによる動作を開始します。

#### 7-2-4. タイマモード選択 (t\_nd) モード2-4

設定種類: OFF, EC, ti, Pon 初期値: OFF



OFF: タイマ機能を使用しないモードです



\* タイマモードで使用の際に  
測定値 (PV) と目標設定値 (SV) の表示が両方とも点滅:  
調節停止 (スタンバイ)  
測定値 (PV) のみが点滅表示:  
スタートタイマ動作中でエンドタイマが停止  
調節停止 (スタンバイの状態を表します)

### 7-3. キーロック画面群 (モード3)

この画面群は目標設定値のリミット、特定キーのロック、DI (外部制御) 入力を選択を行ないます。

#### 7-3-1. 下限リミット (SH\_L) モード3-1

設定範囲: 測定範囲下限値~測定範囲上限値-1 Unit  
初期値: 測定範囲の下限値

SH\_L 目標値下限リミット設定  
00

#### 7-3-2. 上限リミット (SH\_H) モード3-2

設定範囲: 測定範囲上限値~測定範囲下限値+1 Unit  
初期値: 測定範囲の上限値

SH\_H 目標値上限リミット設定  
4000

#### 7-3-3. DI (外部) 制御入力選択画面

この画面で8種類の機能より選択し、DI端子にその機能を割り付けます。  
DI端子に接点 (無電圧) または、オープンコレクタ信号 (約5V/2mA DC) を入力することにより実行できます。  
選択された機能はキー入力、通信コマンドでの実行はできません。

(dC-1) モード3-8, (dC-2) モード3-9  
設定種類: non, Sb, At, A/M, dA, Ec,  
rEm, AdV, HLDの9種類  
初期値: non

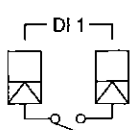
dC-1 DI (外部) 制御入力選択  
Sb

機能	DI入力		備考
	ON	OFF	
Sb 設定値バイアス	実行		SV値+バイアス値
At オートチューニング	DI信号入力毎に実行と解除を繰り返す		
A/M 自動/手動調節切替	手動調節	自動調節	
dA 調節動作特性切替	DA動作	RA動作	
EC 調節動作実行/停止	DI信号入力毎に実行と停止を繰り返す		
rEM 設定モード切替	リモート	ローカル	
AdV アドバンス	ステップ進		プログラム調節時
HLD ホールド	調節一時停止	停止解除	の機能
non ノン	DI (外部) 制御機能使用せず		

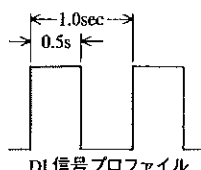
#### DI (外部制御信号)

DI端子間に与える外部制御信号は、接点 (無電圧) または、オープンコレクタ信号 (約5V/2mA DC) を入力することにより実行できます。  
少なくとも500msec以上の幅を持つパルス (ワンショット) で、連続して与える場合の最低間隔は、1秒とします。

調節計 DI 端子



接点信号 (無電圧)  
接点: ON (閉) でDI動作実行



DI信号プロファイル

### 7-4. 入力画面群 (モード4)

この画面は、入力に関する数値の設定と選択を行ないます。

#### 7-4-1. 測定値バイアス (PH\_b) モード4-1

設定範囲: -1999~9999 Unit 初期値: 0 Unit

PH\_b 測定値バイアス設定  
00

\* 検出器 (センサ) の誤差や、検出位置により温度誤差を生じた場合に補正する機能で、測定入力とバイアス値の加算結果値で調節が行なわれます。

#### 7-4-2. 測定値フィルタ定数 (PH\_F) モード4-2

設定範囲: 0~100秒 初期値: 0秒

PH\_F 測定値フィルタ定数設定  
0

\* 測定値の変動が激しい時フィルタ定数を設定し、表示、調節に支障の無いようにし、定数の大きい程フィルタの効果が大きく、定数0ではフィルタの機能はしません。

### 7-4-3. レンジ (rRnG) モード4-3 【レンジ変更をする場合】

設定種類: 下記測定範囲表により選択

初期値: 工場出荷時値又はお客様注文時指定値

rRnG 測定範囲の設定  
5 P2

\* この画面での選択変更は、調節停止 (13ページ参照) 状態でのみ可能  
\* 電圧・電流入力での測定範囲はキーシーケンス図のモード  
4-7 SC\_L (下限値設定画面)  
4-7 SC\_H (上限値設定画面) で決定されますが、選択変更を行なうとSC\_L, SC\_Hの値は初期化されます。  
\* この画面での選択変更を行なうと、測定範囲に関するデータは全て初期化されます。

#### 測定範囲表

(※印 指定のない場合工場出荷時値)

##### ①熱電対グループ

キャラクタ(記号)	入力種類	測定範囲(°C)	測定範囲(°F)
0) 1b [1b]	B	0 ~ 1800	0 ~ 3300
1) 2r [2r]	R	0 ~ 1700	0 ~ 3100
2) 3S [3S]	S	0 ~ 1700	0 ~ 3100
3) 4K1 [4P1]	K1	-100.0 ~ 400.0	-150 ~ 750
4) 5K2 [5P2]	* K2	0.0 ~ 800.0	0 ~ 1500
5) 6K3 [6P3]	K3	0 ~ 1200	0 ~ 2200
6) 7E [7E]	E	0.0 ~ 700.0	0 ~ 1300
7) 8J [8J]	J	0.0 ~ 600.0	0 ~ 1100
8) 9T [9T]	T	-199.9 ~ 200.0	-300 ~ 400
9) 10n [10n]	N	0 ~ 1300	0 ~ 2300
10) 11PL [11PL]	PLH	0 ~ 1300	0 ~ 2300
11) 12Wr [12Wr]	WR5-26	0 ~ 2300	0 ~ 4200
12) 13U [13U]	U	-199.9 ~ 200.0	-300 ~ 400
13) 14L [14L]	L	0.0 ~ 600.0	0 ~ 1100

##### ②測温抵抗体グループ

キャラクタ(記号)	測定範囲(°C)	測定範囲(°F)
0) Pt1 [Pt1]	-199.9 ~ 600.0	-300 ~ 1100
1) Pt2 [Pt2]	-100.0 ~ 100.0	-150.0 ~ 200.0
2) Pt3 [Pt3]	-100.0 ~ 300.0	-150.0 ~ 600.0
3) Pt4 [Pt4]	-50.0 ~ 50.0	-50.0 ~ 120.0
4) Pt5 [Pt5]	0.00 ~ 50.00	0.0 ~ 120.0
5) Pt6 [Pt6]	0.00 ~ 99.99	0.0 ~ 200.0
6) Pt7 [Pt7]	0.0 ~ 100.0	0.0 ~ 200.0
7) Pt8 [Pt8]	* 0.0 ~ 200.0	0.0 ~ 400.0
8) Pt9 [Pt9]	0.0 ~ 500.0	0 ~ 1000

##### ③ mV電圧入力グループ

キャラクタ(記号)	入力(mV)
0) -10.10 [-10.10]	-10 ~ 10
1) 0.10 [0.10]	* 0 ~ 10
2) 0.20 [0.20]	0 ~ 20
3) 0.50 [0.50]	0 ~ 50
4) 10.50 [10.50]	10 ~ 50
5) 0.100 [0.100]	0 ~ 100

##### ④ V電圧入力グループ

キャラクタ(記号)	入力(V)
0) -1.1 [-1.1]	-1 ~ 1
1) 0.1 [0.1]	0 ~ 1
2) 0.2 [0.2]	0 ~ 2
3) 0.5 [0.5]	0 ~ 5
4) 1.5 [1.5]	* 1 ~ 5
5) 0.10 [0.10]	0 ~ 10

##### ⑤ mA電流入力グループ

キャラクタ(記号)	入力(mA)
0) 0.20 [0.20]	0 ~ 20
1) 4.20 [4.20]	* 4 ~ 20

#### 7-4-4. 小数点位置選択画面 (dP) モード4-6

電圧・電流入力時小数点の位置を選択する画面で、, , キーで選択し登録キーで確定します。

\* この画面は、熱電対、測温抵抗体入力時には表示されません。

#### 7-4-5. 測定範囲スケール下限値設定 (SC\_L) モード4-7

電圧・電流入力時測定範囲の下限値を設定する画面です。

設定範囲: -1999~9999 Unit 初期値: 0 Unit

SC\_L 測定範囲下限値設定 (電圧・電流入力時)  
0

#### 7-4-6. 測定範囲スケール上限値設定 (SC\_H) モード4-8

電圧・電流入力時測定範囲の上限値を設定する画面です。

測定範囲: -1999~9999 Unit 初期値: 0 Unit

SC\_H 測定範囲上限値設定 (電圧・電流入力時)  
0

\* 熱電対、測温抵抗体入力時はモニタ画面となり、設定できません。  
\* 選択変更を行なうと、測定範囲に関するデータは全て初期化されます。

## 7-5. 出力画面群〔モード5〕

この画面群は、制御出力に関する数値の設定や選択を行ないます。

### 7-5-1. 出力モード選択画面 (o\_nd) モード5-1

設定種類：ノーマル/normal, スペシャル/SPL  
初期値：ノーマル/normal

**o\_nd** 出力モード ☆モードの選択は、制御停止(スタンバイ)状態でのみできます。  
**normal** ノーマル

□, ▣キーでモード選択, 登録キーで確定

ノーマルモードとスペシャルモードの違いは、後述の出力リミットのリミットモードに関係します。

### 7-5-2. 特殊出力リミット下限設定 (o\_SL) モード5-2

設定範囲：測定範囲内(下限値<上限値)  
初期値：測定範囲下限値

**o\_SL** 下限出力リミット設定  
**00** □, ▣, ▣キーで制御出力が0%となる下限測定範囲(下限リミット)値を設定, 登録キーで確定

### 7-5-3. 特殊出力リミット上限設定 (o\_SH) モード5-3

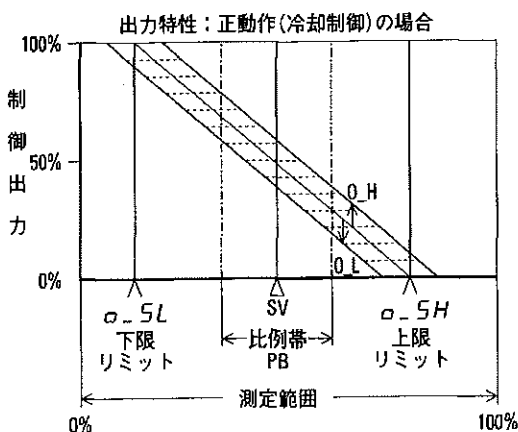
設定範囲：測定範囲内(下限値<上限値)  
初期値：測定範囲上限値

**o\_SH** 上限出力リミット設定  
**1000** □, ▣, ▣キーで制御出力が100%となる上限測定範囲(上限リミット)値を設定, 登録キーで確定

\*ノーマルモードを選択した場合、特殊モードは表示されません。

特殊出力リミットモードとは

図 7.5.1 特殊出力リミットモード動作図



#### \*特殊リミットモードの特長

測定範囲内で、調節温度の下限と上限値で制御出力の0% (最小) と100% (最大) を設定することにより、目標値(SV)の大きさに比例した制御出力が得られます。

☆目標値(SV)を変更した場合、新しい目標値に適合した制御出力がプロセスに与えられるので、調節の行き過ぎや遅れ等を最小限にすることができ、目標値への到達性が良くなります。

### 7-5-4. 出力下限リミット (o\_L) モード5-4

(ノーマルモード選択時)

制御出力の下限値を決定するパラメータで、先の特殊出力リミットモードと異なります。

設定範囲：-10.0~110.0% 初期値：0.0%

**o\_L** 出力下限リミット設定  
**00** □, ▣, ▣キーで数値設定, 登録キーで確定

\*出力リミットモードが特殊(SPL)モードの場合

設定範囲：-100.0~0.0%  
初期値：0.0%となります。

### 7-5-5. 出力上限リミット (o\_H) モード5-5

制御出力の上限値を決定するパラメータで、先の特殊出力リミットモードとは異なります。

設定範囲：-10.0~110.0% 初期値：100.0%

**o\_H** 出力上限リミット設定  
**1000** リミット値  
□, ▣, ▣キーで数値設定, 登録キーで確定

\*出力リミットモードが特殊(SPL)モードの場合

設定範囲：0.0~100.0% 初期値：100.0%

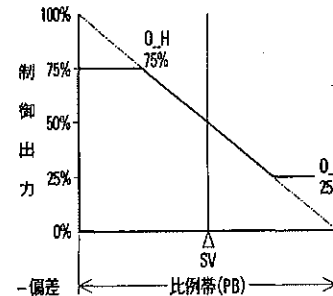


図 7.5.2 出力リミット動作図(ノーマル)

### 7-5-6. ON-OFF動作時の動作すきま設定 (o\_dF) モード5-6

比例帯P=OFFと設定した場合はON-OFF調節動作となり、その際のONとOFF点との動作すきまを設定します。

\*このパラメータは、P=0と設定した場合のみ表示されます。

設定範囲：0.1~10.0% FS 初期値：0.2% FS

**o\_dF** ON-OFF動作すきま設定  
**05**

### 7-5-7. 比例周期の設定 (o\_CY) モード5-7

調節出力が接点または、SSR駆動用電圧出力の場合に表示され、制御対象の時定数等により変更します。

設定範囲：1~120秒 初期値：接点/30秒, SSR駆動用電圧/3秒

**o\_CY** 比例周期設定  
**30**

### 7-5-8. 制御出力動作特性選択 (o\_AC) モード5-8

制御動作(正/逆)の選択画面です。

設定種類：dR(正/冷却)動作, rR(逆/加熱)動作  
初期値：rR(加熱)動作

**o\_AC** 制御出力動作特性選択  
**rR** rR/逆(加熱)動作  
□, ▣キーでrRまたは、dRを選択, 登録キーで確定

### 7-5-9. オートチューニングポイント設定 (At\_P) モード5-9

オートチューニング動作を行なう場合、目標設定値でのリミットサイクルによるハンチングを嫌う場合に仮想のSV値を、その点でAT動作を行ないます。

設定範囲：0.0~50.0% FS 初期値：0.0% FS

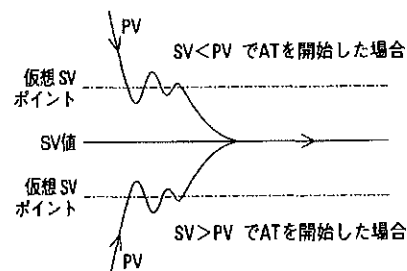


図 7.5.3 AtポイントとAt動作の関係

## 7-6. イベント画面群〔モード6〕 (オプション機能)

この画面はイベント出力及び、ヒータ断線警報に関する画面でイベントまたは、ヒータ断線警報のどちらかがオプションとして付加されている場合に表示され、両方も付加されていない場合、画面の表示は行われません。

\* E V (イベント) 1, 2, 3の3点出力で、ヒータ断線警報 (HB) が付加されている場合は2点出力となります。

### 7-6-1. イベント出力種類選択 (E H n t) モード6-1 初期値: 上限偏差値警報

**E H n t** イベント1出力種類の選択  
**dH** □, □キーにより17種のイベント動作より選択し、イベント1の出力 (接点) に割り付けます。  
(イベント2, 3についても同様の操作による)

No.	キャラクター表示番号	イベント動作内容	
1	non	イベントxを使用しない	
2	PHL	PV 上限絶対値警報	警報 イベント
3	PLL	PV 下限絶対値警報	
4	SHL	SV 上限絶対値警報	
5	SLL	SV 下限絶対値警報	
6	dH	上限偏差値警報	
7	dL	下限偏差値警報	
8	L--H	上下限偏差値警報	
9	-LH-	上下限偏差内警報	
10	t-St	スタートタイマ	
11	t-Et	エンドタイマ	
12	t-SE	スタート・エンドタイマ	
13	At	オートチューニング動作	
14	So	スケールオーバー	
15	run	プログラム運転	プログラム 制御
16	End	プログラム終了	
17	StEP	プログラムステップ	イベント

### 7-6-2. イベント動作すきま設定 (E L d) モード6-2 設定範囲: 0.1~10.0FS 初期値: 0.2% FS

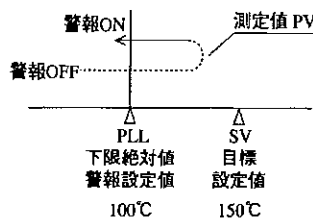
**E L d** イベント1動作すきま設定  
**0.2** (イベント2, 3についても同様の操作による)

\* この画面はイベントオプションが付加されている場合で、6-1のイベントモード選択画面においてNo.2~No.9までの警報イベントが選択されている場合のみ表示され、設定ができます。

### 7-6-3. イベント待機動作選択画面 (E L S) モード6-3 設定種類: on (待機) またはoFF (非待機) 初期値: oFF (非待機)

**E L S** イベント1待機動作選択  
**oFF** (イベント2, 3についても同様の操作による)

\* 待機動作とは  
測定値 (PV) が正常領域に入るまで警報の発生を待機させる機能で、電源投入時通常は、電気炉等の温度は目標設定値以下ですが、この場合異常ではないので、下限警報は出力せず、温度が上がリ、一度警報設定値を超えてから温度が下がった場合、下限警報出力をONさせる機能を言います。



### 7-6-4. ヒータ電流値モニタ (Hb\_A) モード6-7

この画面はイベント3のオプションが付加され、それがヒータ断線または、ヒータループ警報の場合に表示されます。

\* 調節出力 Y (接点) または、P (SSR 駆動電圧) で単相負荷制御時に適応

**Hb\_A** ヒータ電流値モニタ画面  
**100** 電流値モニタ範囲: 0.0~35.0A

### 7-6-5. ヒータ断線警報電流値設定 (Hb\_S) モード6-8 設定範囲: oFF, 0.0~30.0A 初期値: oFF

**Hb\_S** ヒータ断線警報電流値設定  
**100**

### 7-6-6. ヒータループ警報電流値設定 (HL\_S) モード6-9 設定範囲: oFF, 0.0~30.0A 初期値: oFF

**HL\_S** ヒータループ警報電流値設定  
**100**

\* ここで設定された警報電流値より、調節出力が (接点, SSR 駆動電圧) O F F における時のヒータ電流値の方が大きい (CT 検出力) 場合、ヒータを含む出力回路の異常として警報を出力します。

\* ヒータ断線警報とヒータループ警報は同一 (HB) 端子より出力されます。警報ランプ (HB) も共通に使用されておりますので、ヒータ断線または、ループ異常かはモード6-7のヒータ電流モニタ画面にて確認してください。

### 7-6-7. ヒータ断線警報動作モード選択 (Hb\_n) モード6-10 設定種類: LoCP/ロック, rEAL/リアル 初期値: ロック

**Hb\_n** ヒータ断線警報動作モード設定  
**LoCP**

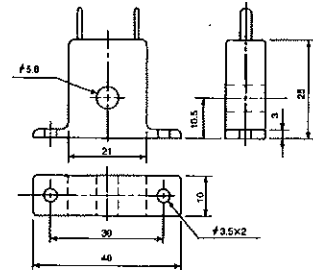
#### \* ロックモード

一度警報が出力された場合、警報出力がロックされ、電流値が正常になっても引き続き警報を出力し続けます。  
警報信号は、ヒータ断線警報の場合は6-8画面モードでHb\_SをO F F ループの場合は6-9画面でHL\_SをO F Fにするか、警報動作モードの変更か、調節計の電源をO F Fにしなければ解除できません。

#### \* リアルモード

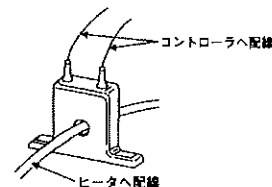
このモードはヒータ断線または、ループ異常になった時に警報が出力され、ヒータ電流値が正常に戻った時、警報出力も自動的に解除されます。

\* 電流検出器 (CT) は付属のものをお使いください。(型式: CTL-6-S)



#### \* 接続方法

専用CTの穴に負荷線の一本を貫通させます。  
CTから温度調節計端子 (CT) への配線に極性はなりません。  
ヒータと調節計の電源は、共通電源より配線し同時に通電してください。



## 7-7. オプション画面群〔モード7〕

この画面はオプション機能として、リモート設定 (rE) 機能及びアナログ出力 (Ao) 機能、通信 (C) 機能 (別冊取扱説明書) が付加されている場合にのみ表示されます。

### 7-7-1. リモート設定スケーリング下限値設定 (rE\_L) モード7-1

設定範囲: 測定範囲下限値~測定範囲上限値-1  
初期値: 測定範囲下限値

**rE\_L** リモート設定スケーリング下限値設定  
00 (リモート設定入力下限値に対し、測定範囲のスケーリング下限値を設定)

### 7-7-2. リモート設定スケーリング上限値設定 モード7-2

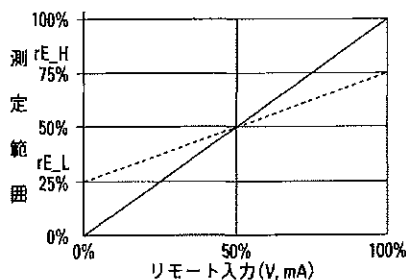
設定範囲: 測定範囲下限値+1~測定範囲上限値  
初期値: 測定範囲上限値

**rE\_H** リモート設定スケーリング上限値設定  
2000 (リモート設定入力上限値に対し、測定範囲のスケーリング上限値を設定)

\* rE\_L と rE\_H の関係は、 $rE_H \geq rE_L + 1$  となり、rE\_L の値が優先されます。

\* 7-7-1画面で  $rE_L \geq rE_H$  の設定をした場合 rE\_H の値は、強制的に  $rE_L + 1$  の値になります。

\* 7-7-2  $rE_H \leq rE_L$  の設定をしようとしても、登録キーによる確定はできません。



\* 7-7-1画面と7-7-2画面でのリモート設定スケーリングの関係は上図のようになります。

(例) 測定範囲: 0.0~200.0℃, リモート入力: 0~10V  
**実線の場合**                      **破線の場合**  
 設定入力                      設定入力  
 0V rE\_L: 0.0℃(0%)      0V rE\_L: 50.0℃(0%)  
 10V rE\_H: 200.0℃(100%)      10V rE\_H: 150.0℃(100%)

リモート設定入力	スケーリング設定値 (実線)	スケーリング設定値 (破線)
0V	0.0℃	50.0℃
5V	100.0℃	100.0℃
10V	200.0℃	150.0℃

### 7-7-3. リモート設定バイアス (rE\_b) モード7-3

測定範囲: -1999~9999 Unit 初期値: 0 Unit

**rE\_b** リモート設定バイアス  
0 バイアス値  
☐, ☒, ☓キーで数値設定, 登録キーで確定  
\* 定値制御でリモート設定モードの場合、目標値に対してこの画面で設定した値を加算した値で制御されます。  
\* ここで設定した値は、DI (外部制御) 入力のDI1またはDI2でSB入力が選択されている場合、選択DI入力ON (閉) 作動

### 7-7-4. リモート設定フィルタ (rE\_F) モード7-4

設定範囲: 0~100秒 初期値: 0秒

**rE\_F** リモート設定フィルタ定数  
0

リモート設定信号入力にノイズ等の雑音が含まれている場合、制御結果に悪影響を及ぼすことがあり、その影響を減少させるため、設定入力にフィルタ効果を与えます。定数の大きい程雑音の除去効果は強く、定数0ではフィルタ効果はありません。

### 7-7-5. アナログ出力モード (Ao\_n) モード7-5

設定種類: PH (PV) またはSH (SV) 初期値: PV

**Ao\_n** アナログ出力選択  
PH

### 7-7-6. アナログ出力スケーリング下限値 (Ao\_L) モード7-6

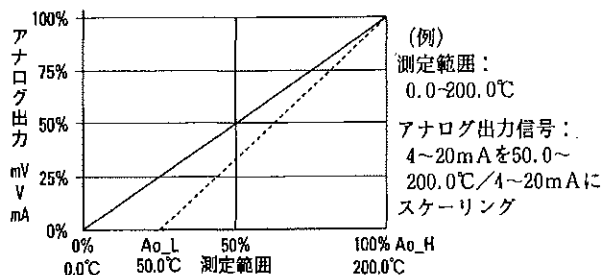
設定範囲: 測定範囲下限値~測定範囲上限値-1  
初期値: 測定範囲下限値

**Ao\_L** アナログ出力スケーリング下限値設定  
00

### 7-7-7. アナログ出力スケーリング上限値 (Ao\_H) モード7-7

設定範囲: 測定範囲下限値 + 1~測定範囲上限値  
初期値: 設定範囲上限値

**Ao\_H** アナログ出力スケーリング上限値設定  
2000



\* Ao\_L と Ao\_H の関係

$Ao_H \geq Ao_L + 1$  となり、Ao\_L の値が優先します。  
 $Ao_L \geq Ao_H$  を設定した場合、Ao\_H の値は強制的に  $Ao_L + 1$  となります。

$Ao_H \leq Ao_L$  の設定はできません。

### 7-7-8. 開平演算選択画面 (root/off) モード4-9

設定種類: on, OFF 初期値: OFF

**root**  
**off** ☐, ☒キーでon (使用する) off (使用しない) を選択, 登録キーで確定

• 開平演算 (オプション) が付加されていない場合、及び熱電対、温度抵抗体入力時には、この画面は表示されません。

• 開平演算をonにすると、電圧又は電流入力信号を開平演算して、内部に取り込む機能で、主として差圧式流量計のリニアライザとして利用されます。

• この画面での選択変更は、制御停止 (解除) 状態でのみ可能です。

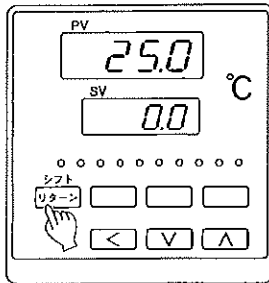
## 8. 運 転

本器では、各定数の設定方法としてアップ・ダウン方式を採用しており、前面の $\square$ 、 $\square$ 、 $\square$ キー操作後、 $\square$ キーにより設定値の変更ができます。

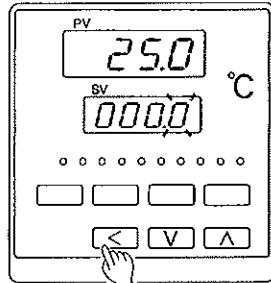
### 8-1. 目標値の設定方法

#### 8-1-1. 目標値 (SV) の設定 / ローカルモード

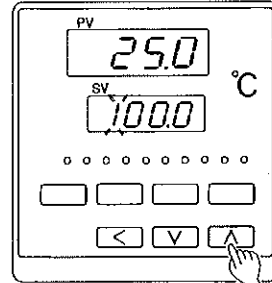
設定範囲：測定範囲内（設定値リミッタが定められている場合はその範囲内）



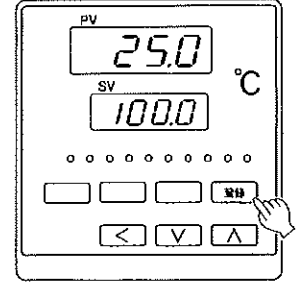
基本画面（測定値／目標値）表示であることを確認、他のモードになっている場合は $\square$ キーを続けて2回押し、基本画面にします。



$\square$ キーを押すとSV表示の最下桁の数字が点滅し、変更可能状態になり、続けて $\square$ キーを押すと点滅桁は上位に移行します。



$\square$ キーで点滅表示桁を最上位に移行し、 $\square$ キーを押し1に設定します。

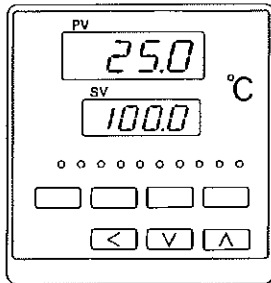


$\square$ キーを押すと数字の点滅は停止し、新しい目標値の設定が完了します。

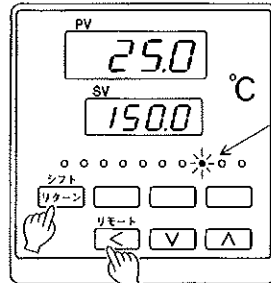
#### 8-1-2. 目標値 (RSV) の設定 / リモートモード \*オプション

設定範囲：測定範囲内（スケリングによる）

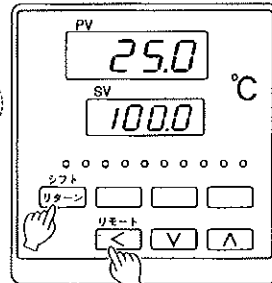
設定信号：注文時に指定のアナログ信号（4～20 mA，1～5 V，0～10 V DCのいずれか）



ローカルモードから、リモートモードへの切替は、基本画面のみできます。



$\square$  +  $\square$ キーを押すことにより、リモート設定モードに切り換わります。リモートモード選択時、リモートランプが点灯します。

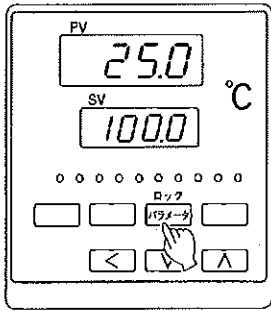


リモートモードからローカルモードへの切替は、先と同様の操作で行なえます。リモートランプの消灯を確認してください。

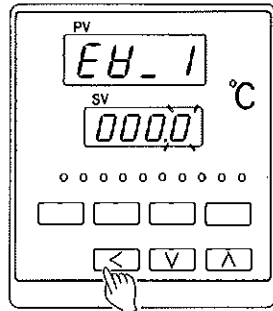
\*DI（外部制御）により、リモート「rEn」を選択された場合、前面のリモートキーによって、ローカル／リモートの切替はできません。

## 8-2. イベント動作点の設定方法 (オプション)

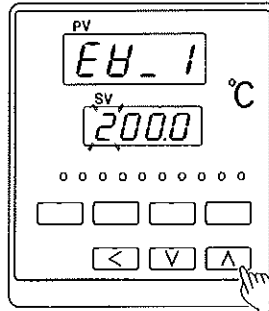
イベント画面群 [モード6] / 9 ページで選択された機能のイベントEV1, EV2, EV3の動作点を設定します。  
設定範囲: 測定範囲内



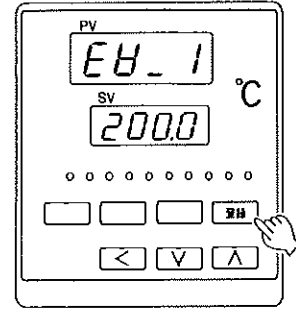
基本画面で「**ロック**」キーを5又は6回押します。



EV-1 (イベント1) 画面にて「**リモート**」キーを押すとSV表示器の最下位桁の数字が点滅し、変更可能状態となり、続けて「**リモート**」キーを押すと点滅桁は上位へ移行します。



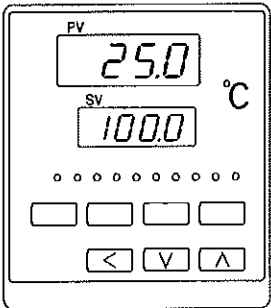
「**リモート**」キーで数字の点滅を希望桁へ移行し、「**手動**」, 「**AT**」キーで数値を設定します。



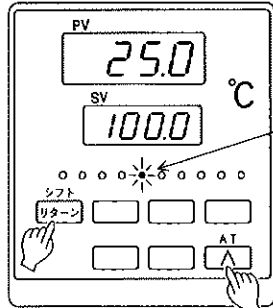
「**実行**」キーを押すと数字の点滅は停止し、イベント動作点の設定が完了します。

## 8-3. オートチューニングの実行方法

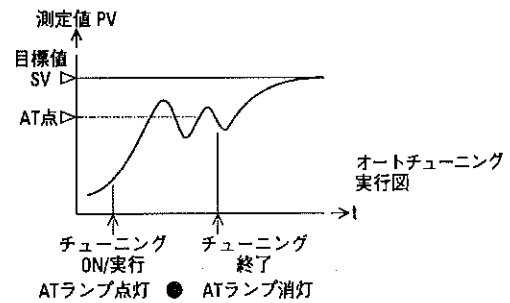
PID調節においてプロセスに適合したPID定数を調節計自身が求め自動設定しますので、わずらわしいPID定数の設定から開放されます。



オートチューニングの実行は基本画面で行なえます。



「**シフト**」キーを押しながら「**AT**」キーを押すとATランプが点灯し、オートチューニング動作が実行されます。オートチューニング動作が終了すると、ATランプは消灯します。



\* オートチューニング (AT) 実行の中止となる時

- AT実行に入り、その時間が250分を超えても終了しない時
- AT実行中に停電した場合
- AT実行中に出力特性 (RA/DA) が変更された時
- AT実行点 (オートチューニングポイント) を途中で変更した時

AT実行点: 8 ページを参照ください。

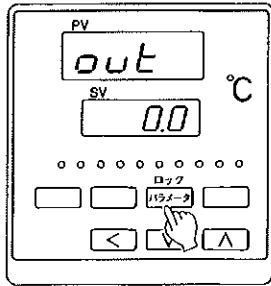
\* オートチューニング (AT) 動作を途中で中止させる場合

AT実行時と同様のキー操作により中止でき、PID定数は実行前の値のまま変更ありません。

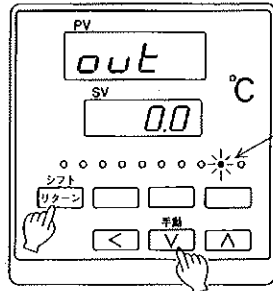
### 8-4. 手動（マニュアル）調節の方法

設定範囲：-10.0～+110.0%

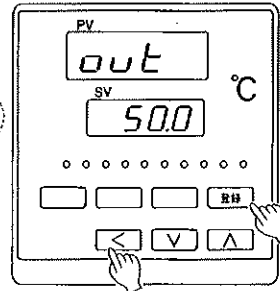
調節出力の値を手動で設定する機能で、出力画面において **シフト** + **手動** キーを押すと、手動ランプ（赤色）が点滅点灯し、手動調節モードとなり、**リターン**、**リターン**、**リターン** キーで調節出力値を設定し、登録キーで確定します。



基本画面の状態では **ロック** キーを1回押し、出力画面にします。



**シフト** + **手動** キーを押すと手動ランプ（赤色）が点滅点灯し、手動調節モードになります。



リモート、**手動**、**AT** キーで調節出力値を設定し、登録キーを押すと点滅数値が点灯表示に変わり、設定値が出力されます。

手動モードから自動モードへの復帰は、先と同じキー操作にて行なえます。

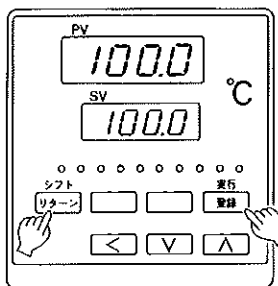
この場合手動ランプが消灯したことを確認してください。

\*測定値と調節出力値を、同時に観測したい場合は〔モード0-2〕で可能となります。

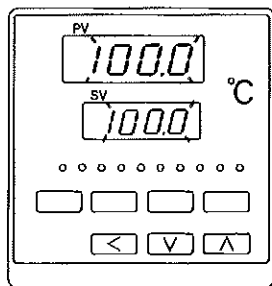
（上段：測定値／下段：出力値を点滅表示）

### 8-5. 調節の実行・停止（スタンバイ）の方法

調節動作中に、調節計は通電したままで、一時的に調節出力を停止（スタンバイ）させたい場合 **シフト** + **実行** キーを押すことにより、調節出力を0.0%にし、調節動作及びイベントの出力を停止させることができます。



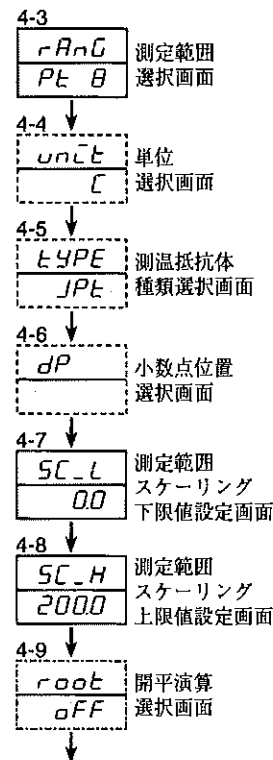
基本画面の状態では **シフト** + **実行** キーを押します。



測定値及び目標値とも表示が点滅し、調節出力、イベントの出力が停止されます。

\*停止中の調節動作を再び実行させる場合、基本画面において同じキーの操作により、調節実行へ移行できます。

\*入力画面群〔モード4〕で入力に関する下記画面の設定変更は制御停止（スタンバイ）の状態にて行ないません。

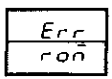
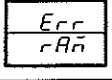
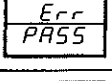





## 9. エラーメッセージ 「 注意」

異常が発生した場合、表示画面に下のようなメッセージが表示されます。

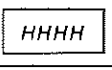
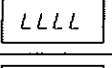
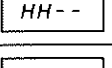
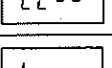
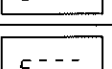

### 9-1. MPU, メモリーの異常

表示	原因と現象
	ROMの異常 全てのキー受付停止
	RAMの異常 全てのキー受付停止
	メモリー内のパスワード異常 全てのキーの受付停止
	EEPROMの異常 いずれかのキー入力の基本画面へ移行

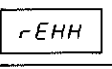
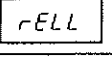
\* 左記のメッセージ時には調節出力0%, イベント出力OFF, ヒータ断線警報OFF, アナログ出力は全てOFFとなります。

修理または、交換が必要となりますので、取扱店、弊社営業所にご連絡ください。

### 9-2. 測定値 (PV) 入力の異常

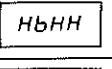
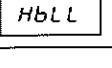
測定値表示	原因
	熱電対の断線, 測温抵抗体のAが断線した場合, 電圧・電流入力でスケーリングを含む測定範囲の上限 (+10%) を超えた場合。
	熱電対配線の+, -が逆の状態に調節した場合, 電圧・電流入力でスケーリングを含む測定範囲の下限 (-10%) を超えた場合。
	熱電対入力で基準接点補償回路が上限側に異常になった場合。
	熱電対入力で基準接点補償回路が下限側に異常になった場合。
	測温抵抗体入力でABbのBが断線または, Aとb両方とも断線した場合。
	測温抵抗体入力でABbのbが断線または, 抵抗値が極めて小さくなった場合。

### 9-3. リモート設定入力の異常

設定値表示	原因
	リモート設定入力が, 測定範囲上限値の約10%を超えた場合。
	リモート設定入力が, 測定範囲下限値の約-10%を超えた場合。

リモート設定入力に異常発生の場合は, 0-0, 基本画面 0-2, リモート設定 (r5d) 画面で, 設定値表示画面にメッセージが表示されます。

### 9-4. ヒータ断線CT入力の異常

設定値表示	原因
	CT入力値が, 38.5Aを超えた場合。
	CT入力値が, -3.5Aを超えた場合。

ヒータ断線警報でCTの入力に異常が発生した場合, 設定表示器にメッセージが表示されます。

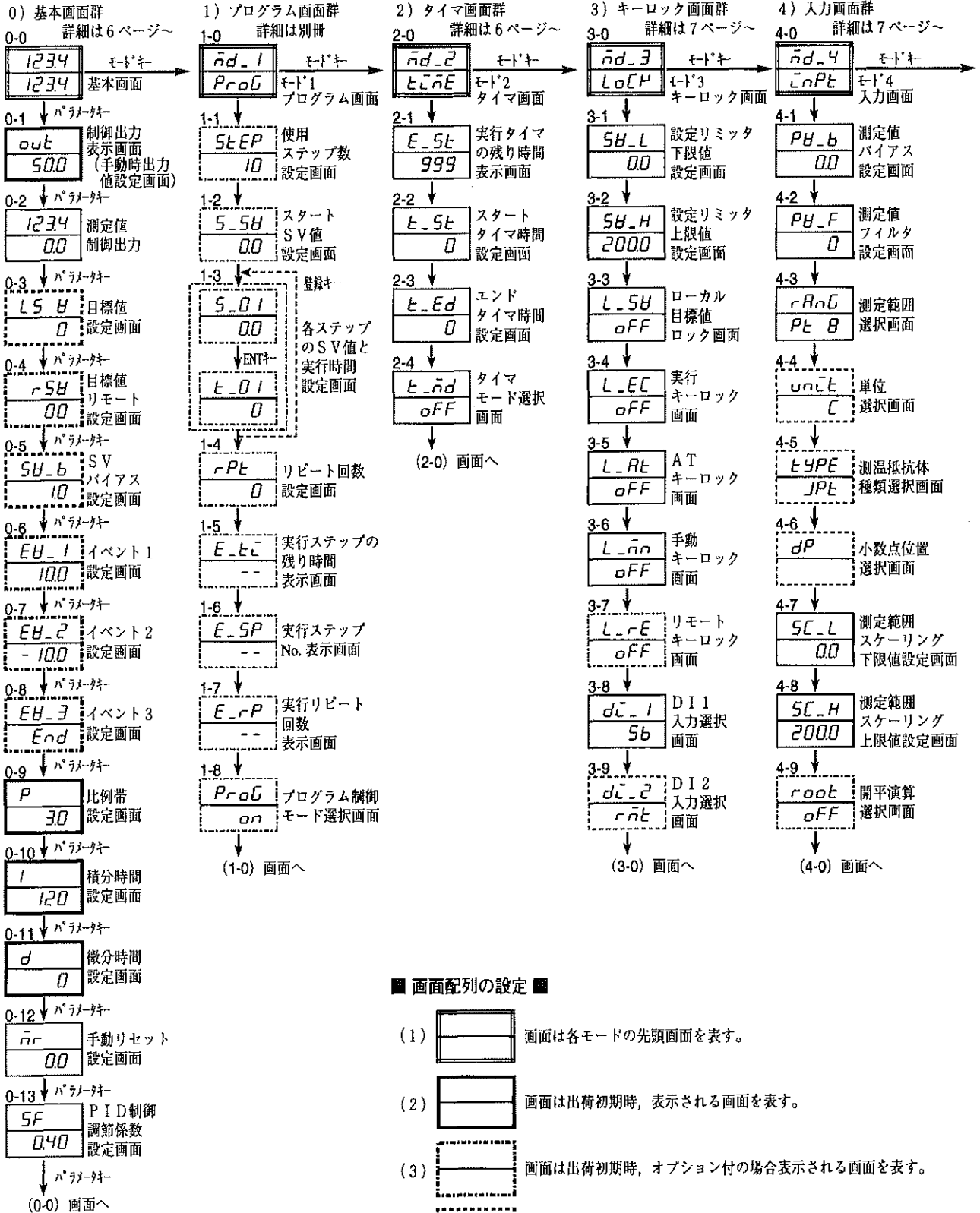
### 9-5. 表示データが-1999カウントを超えた場合, 測定値表示器に以下の表示がされます。

∪000~∪999: 表示値が 10000~10999カウント時に表示

∩000~∩999: 表示値が -2000~2999カウント時に表示

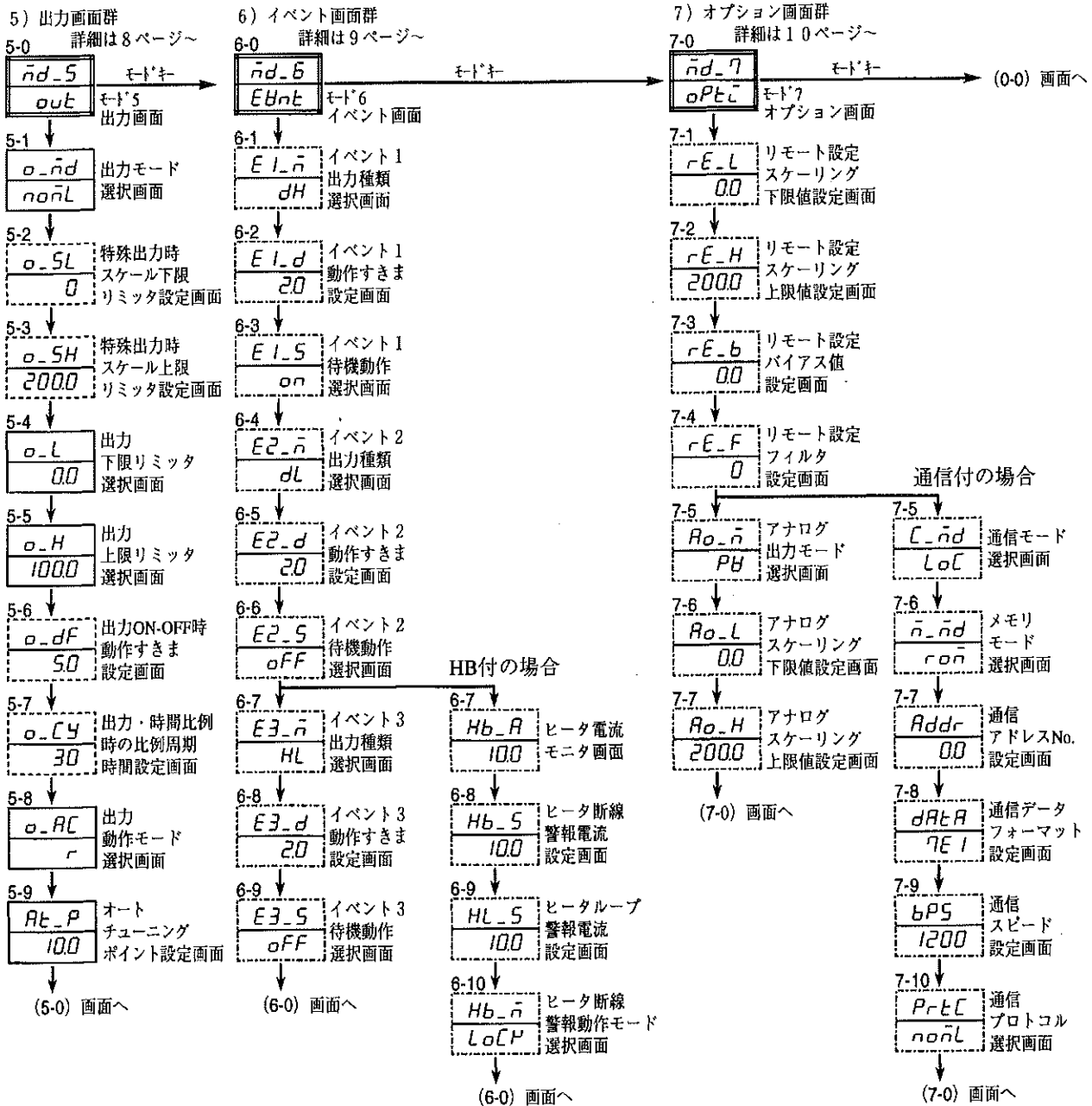
\* 測定値入力, リモート設定入力, ヒータ断線警報の異常メッセージが表示された場合は, 各入力についてチェックしてください。入りに異常の無い場合は他の原因も考えられますので, 取扱店, 弊社営業所にご連絡ください。

# 10. キーシーケンス



## ■ 画面配列の設定 ■

- (1) 画面は各モードの先頭画面を表す。
- (2) 画面は出荷初期時、表示される画面を表す。
- (3) 画面は出荷初期時、オプション付の場合表示される画面を表す。
- (4) 画面は出荷初期時、表示されない (画面ロック状態) 画面を表す。
- (5) 画面は出荷初期時、表示されない (画面ロック状態) 画面を表す。
- (6) 画面は特定パラメータのモードにより表示されたり、されなかったりする画面を表す。但し、出荷初期時は画面ロック状態。
- (7) 画面はオプション付時、表示される画面を表す。但し、出荷初期時は画面ロック状態。



## ■ キー操作の説明 ■

- 工場出荷時には画面ロック状態になっており、0-0 基本画面と基本画面群の一部のみが表示され、 $\overline{\text{表示}}$  キーを押しても他のモード画面群へは切り換わりません。

画面ロックを解除して各画面を表示可能とするには、 $\overline{\text{シフト}}$  キーを押しながら  $\overline{\text{表示}}$  キーを押して、表示ランプを点灯状態にします。この状態の時は全パラメータが表示されます。

この状態で  $\overline{\text{表示}}$  キーを押すと、

- モード0 基本画面 → モード1 プログラム画面 → モード2 タイマ画面 → …… → モード7 オプション画面 → 基本画面へと各画面群の先頭画面間を移行します。
- 各画面群の先頭画面以外の画面で  $\overline{\text{表示}}$  キーを押すと、その画面群の先頭画面へ画面が移ります。
- パラメータの表示が点滅状態の場合は画面がロック状態になっておりますので数値の変更はできません。数値を変更する場合は画面ロックを解除する必要があります。 $\overline{\text{シフト}}$  キーを押しながら  $\overline{\text{シフト}}$  キーを押すとパラメータの表示が点滅から点灯に変わりロックが解除されます。設定後画面をロック状態にする場合は、同じキー操作を行いません。

- $\overline{\text{ロック}}$  キーを押すと、各画面群内で押す毎にキーシーケンスの上から下へ順次画面を移行し、一番下の画面からは先頭画面へ戻ります。

- $\overline{\text{シフト}}$  キーを続けて2回押すと、どの画面を表示していても、0-0 基本画面へ戻ります。

- 各画面での設定・選択変更は  $\square$ ,  $\square$ ,  $\square$  キーで行ない、 $\overline{\text{実行}}$  キーで確定します。  
(制御実行中でも設定・選択変更が可能な画面と制御停止状態でのみ設定・選択変更が可能な画面があります。)

## 11. 仕様

<b>■表示</b>	デジタル表示 .....	7セグメントLED, 4桁 (2組)
	表示精度 .....	± (0.25% FS+1 digit) *測定範囲表参照 (7ページ)
	表示精度維持範囲 .....	23±5℃
	表示分解能 .....	測定レンジにより異なる (0.001, 0.01, 0.1, 1)
	サンプリング周期 .....	0.25秒
	動作表示 .....	10種類 LEDランプ表示
<b>■設定</b>	ローカル設定 .....	前面キースイッチ (7個) 操作による
	設定範囲 .....	測定範囲に同じ
	設定リミット .....	上下限個別設定, 測定範囲内任意 (下限値<上限値)
	リモートSV設定 .....	外部アナログ信号による (*オプション)
	通信による設定 .....	通信機能による (*オプション)
<b>■入力</b>	熱電対 .....	B, R, S, K, E, J, T, N, PLII, WRE5-26, [U, L (DIN 43710)] (マルチ入力, マルチレンジ) *測定範囲表参照 (7ページ)
	外部抵抗許容範囲 .....	100Ω以下
	入力抵抗 .....	500kΩ以上
	バーニアウト .....	標準装備 (アップスケール)
	基準接点温度補償精度 .....	±2℃ (5~45℃の範囲)
	測温抵抗体 .....	JIS Pt100 / JPt100 切り換え可 (マルチレンジ) *測定範囲表参照 (7ページ)
	規定電流 .....	約0.5mA
	導線抵抗許容範囲 .....	一線あたり 5Ω以下
	電圧 .....	-10~10, 0~10, 0~20, 0~50, 10~50, 0~100mV DC または, -1~1, 0~1, 0~2, 0~5, 1~5, 0~10V DC (マルチ入力, プログラマブルレンジ)
	入力抵抗 .....	500kΩ以上
	電流 .....	4~20, 0~20mA DC (マルチ入力, プログラマブルレンジ)
	受信抵抗 .....	250Ω
	サンプリング時間 .....	0.25秒
	PVバイアス .....	-1999~9999 Unit (センサ補正)
	PVフィルタ .....	0~100秒
	アイソレーション .....	入力とシステム及び各種出力間絶縁 (但し, リモート入力, CT入力, DI入力とは非絶縁)
<b>■制御 (調節)</b>	制御方式 .....	オートチューニング機能付き, PID制御方式
	比例帯 (P) .....	ON-OFF, 0.1~999.9% FS
	積分時間 (I) .....	OFF, 1~6000秒 (OFF: PD, P動作)
	微分時間 (D) .....	OFF, 0, 1~3600秒 (OFF, 0: PI, P動作)
	マニュアルリセット .....	-50.0~50.0% (I=OFF時有効), 他 負荷率定数として使用
	ON-OFF動作すきま .....	0.1~10.0% FS
	比例周期 .....	1~120秒
	調節出力特性 .....	RA/DA 切り換え可
	上下限出力リミット .....	標準リミット: -10.0~110.0% (下限<上限) 特殊リミット: PV値同期型リミット
<b>■調節出力種類・定格</b>	接点出力 .....	240V AC 2.5A/抵抗負荷
	電圧出力 .....	0~10V DC/負荷電流 2mA以下
	電流出力 .....	4~20mA DC/負荷抵抗 600Ω以下
	SSR駆動電圧出力 .....	15V±3V DC (負荷抵抗 1.5kΩ時), 20mA以下
	アイソレーション .....	出力とシステム及び各種入出力間絶縁
<b>■手動調節</b>	出力設定範囲 .....	-10.0~110.0% (設定分解能0.1%) 但し, 上下限出力リミット範囲内
	自動/手動切り換え .....	バランスレスバンプレス 但し, 比例帯範囲内
<b>■設定値バイアス (SB)</b>	設定範囲 .....	-1999~9999 Unit
	設定分解能 .....	表示分解能に同じ
	動作入力 .....	外部制御入力 (DI) で選択時, 入力閉でバイアス動作
<b>■外部制御入力 (DI)</b>	入力点数 .....	DI 1, DI 2の2点 (但し, HBが付加されている場合はDI 1の1点)
	入力定格 .....	無電圧接点, オープンコレクタ入力 (約5V/2mA DC 印加)
	動作種類 .....	NON, SB, AT, MAN, DA, REM, EXEC, ADV, HLD の9種類より選択
	アイソレーション .....	DI入力とシステム及び各種出力間絶縁 (但し, PV入力, リモート入力, CT入力とは非絶縁)
<b>■タイマ機能</b>	動作種類 .....	OFF, 実行モード, タイマモード, パワーONモードの4種類
	スタートタイム .....	0~9999分
	エンドタイム .....	1~9999分, 0設定でキーまたは電源OFFまで連続

付加機能 (オプション)

■ヒータ断線警報 (HB)  
(単相用)

警報動作	外付けCTによりヒータ電流検出 (CT付属)	
	出力 ON時のヒータ断線検出時	警報出力 ON
	出力 OFF時のヒータループ警報検出時	警報出力 ON
ヒータ断線警報		
電流設定範囲	0.1~30.0A (OFF設定で警報動作停止)	
ヒータループ警報		
電流設定範囲	0.1~30.0A (OFF設定で警報動作停止)	
設定分解能	0.1A	
電流表示	0.0~35.0A (±10%)	
表示精度	3% FS (正弦波50Hz 時)	
最小動作確認時間	ON (OFF) 時間 250msec 以上	
警報出力/定格	接点出力/240V AC 1.5A (抵抗負荷), 1a (イベント出力とコモン共通)	
警報保持モード	保持/非保持 選択	
サンプリング時間	1秒	
アイソレーション	CT入力とシステム及び各種出力間絶縁 (但し, PV入力, リモート入力, DI入力とは非絶縁)	

■アナログ出力

アナログ出力数	1点
アナログ出力種類	測定値 (PV), 設定値 (SV) より選択
アナログ出力	0~10mV DC/FS 出力抵抗 10Ω 0~10V DC/FS 負荷電流 2mA 以下 4~20mA DC/FS 負荷抵抗 300Ω 以下
出力精度	±0.25% FS (表示値に対して)
出力分解能	約0.04% FS (1/2500)
出力スケール	測定範囲内
アイソレーション	アナログ出力とシステム及び各種入出力間絶縁

■開平演算

対象入力	直流電圧または電流入力時
ローカット範囲	0~1% FS (入力)

■リモート設定

設定範囲	測定範囲に同じ
設定精度	± (0.25% FS+1 digit)
設定信号	0~10V DC, 1~5V DC: 入力抵抗 500kΩ 以上 4~20mA DC: 受信抵抗 250Ω
スケール	測定範囲内任意 (下限値<上限値)
リモートバイアス	-1999~9999 Unit
リモートフィルタ	0~100秒
リモート/ローカル切換え	前面キー, 通信, 外部制御入力 (DI入力選択) 操作による
サンプリング時間	0.5秒
アイソレーション	リモート入力とシステム及び各種出力間絶縁 (但し, PV入力, CT入力, DI入力とは非絶縁)

■イベント出力

イベント出力数	EV 1, EV 2, EV 3の3点 (個別設定, 個別出力) (但し, HBが付加されている場合はEV 1, EV 2の2点) (SR52の場合 EV 1, EV 2とEV 3/HB共通出力の2点)
イベント種類	NON 1点 PV (上限, 下限) 2点 SV (上限, 下限) 2点 DEV (上限偏差, 下限偏差, 上下限偏差, 上下限範囲内) 4点 TIME (START, END, START/END) 3点 PRG (RUN, END, STEP) 3点 AT, SO 2点 の17種類より選択
イベント動作	ON-OFF動作 (PV, SV, DEV時)
イベント動作すきま	0.1~10.0% FS (PV, SV, DEV時)
イベント出力	接点出力 240V AC 1.5A (抵抗負荷), 1a (コモン共通)
待機/非待機動作	個別切り換え (PV, SV, DEV時)

■プログラム機能、■通信機能の仕様については別紙の取扱説明書を参照ください。

■ その他

データ保持	不揮発性メモリ (EEPROM) による
使用周囲温度/湿度範囲	-10~50℃/90% RH 以下 (結露無きこと)
保存温度	-20~65℃
電源電圧	100~240V AC ±10% 50/60Hz, 24V AC ±10% 50/60Hz または24V DC ±10% より選択
消費電力	SR52, SR54: 最大13VA, SR53: 最大15VA
絶縁抵抗	入出力端子と電源端子間 500V DC 20MΩ 以上 入出力端子と接地端子間 500V DC 20MΩ 以上
耐電圧	入出力端子と電源端子間 1000V AC 1分間 電源端子と接地端子間 1500V AC 1分間
保護構造	前面操作部のみ簡易防塵防滴構造
材質	樹脂成形
外形寸法	SR52: H72×W72×D110 (パネル内100) mm SR53: H96×W96×D110 (パネル内100) mm SR54: H96×W48×D110 (パネル内100) mm
取付	パネル埋め込み方式 (ワンタッチ取付)
適用パネル厚	1~3.5mm
取付穴寸法	SR52: 68×68mm, SR53: 92×92mm, SR54: 92×45mm
質量	SR52: 約350g, SR53: 約450g, SR54: 約350g

12. コード選択表

項目	コード	仕	様
1. シリーズ	SR52-	72×72 DINサイズ	デジタル調節計
	SR53-	96×96 DINサイズ	デジタル調節計
	SR54-	96×48 DINサイズ	デジタル調節計
2. 入力	1	熱電対 B, R, S, K, E, J, T, N, PLII, WRe5-26, U, L	マルチ入力, マルチレンジ
	2	測温抵抗体 Pt100/JPt100	マルチレンジ
	3	電圧 (mV) -10~10, 0~10, 0~20, 0~50, 10~50, 0~100mV DC	マルチ入力, プログラマブルレンジ
	4	電流 (mA) 0~20, 4~20mA DC	
	6	電圧 (V) -1~1, 0~1, 0~2, 0~5, 1~5, 0~10V DC	
3. 調節出力	Y-	接点 比例周期 1~120秒 接点容量: 240V AC 2.5A/抵抗負荷	
	I-	電流 4~20mA DC 負荷抵抗: 600Ω以下 (出荷時 RA)	
	P-	SSR駆動電圧 比例周期 1~120秒 出力定格: 15V±3V DC/20mA以下	
	V-	電圧 0~10V DC 最大負荷電流: 2mA以下	
4. 電源	90-	100~240V AC±10% 50/60Hz	
	10-	24V AC±10% 50/60Hz	
	02-	24V DC±10%	
5. プログラム機能	N	なし	
	P	最大10ステップ 時間: 0~9999分/1ステップ, リピート回数: 0~9999回	
6. イベント出力	0	なし	
	1	接点 (1a) SR52 (EV1, EV2とEV3/HB共通) /2点, SR53・SR54 (EV1, EV2, EV3/HB) /3点	
7. リモート設定入力	00	なし	
	14	4~20mA DC 受信抵抗: 250Ω	システム及び各種出力間絶縁 PV, CT, DI 入力とは非絶縁
	15	1~5V DC 入力抵抗: 500kΩ	
	16	0~10V DC 入力抵抗: 500kΩ	
8. ヒータ断線/ヒータループ警報 (調節出力 Y, P 時のみ選択可) (単相用)	0	なし	
	1	電流値設定範囲: 0.1~30.0A 接点出力 (1a) : 240V AC 1.5A/抵抗負荷	
9. 開平 (√) 演算 (電圧, 電流入力時のみ選択可)	0-	なし	
	1-	付き	
10. アナログ出力又は通信機能	00	なし	スケーリング 可能
	03	電圧 0~10mV DC 出力抵抗: 10Ω	
	04	電流 4~20mA DC 負荷抵抗: 300Ω以下	
	06	電圧 0~10V DC 最大負荷電流: 2mA以下	
	15	RS-485	
	16	RS-422A (注: SR52では選択不可)	
	17	RS-232C	
11. 前面シート文字	J	日本語	
	E	*英語	
12. 特記事項	0	なし	
	9	あり	

(\* 英語を指定された場合でも取扱説明書は和文が添付されます。)

取扱説明書の記載内容は改良のため、お断りなく変更する場合がありますのでご了承ください。

**株式会社 シマダ**

本社：〒179-0081 東京都練馬区北町2-30-10

東京営業所：〒179-0081 東京都練馬区北町2-30-10	☎(03)3931-3481	代表	FAX (03)3931-3480
横浜営業所：〒220-0074 横浜市西区南浅間町21-1	☎(045)314-9471	代表	FAX (045)314-9480
静岡営業所：〒420-0803 静岡県静岡市千代田1012-3	☎(054)265-4767	代表	FAX (045)265-4772
名古屋営業所：〒465-0024 名古屋市名東区本郷2-14	☎(052)776-8751	代表	FAX (052)776-8753
大阪営業所：〒564-0038 大阪府吹田市南清和園町40-14	☎(06)6319-1012	代表	FAX (06)6319-0306
広島営業所：〒733-0812 広島県広島市西区己斐本町3-17-15	☎(082)273-7771	代表	FAX (082)271-1310
埼玉工場：〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保573-1	☎(049)259-0521	代表	FAX (049)259-2745

\*商品の技術的内容につきましては、☎(03)3931-9891にお問い合わせください。